



This is our Communication on Progress in implementing the principles of the United Nations Global Compact and supporting broader UN goals.

We welcome feedback on its contents.

株式会社  
良品計画

株式会社 良品計画  
Ryohin Keikaku Co.,Ltd.(MUJI)

## 2014 Communication on Progress

対象期間:2013年9月～2014年9月

国連の提唱する人権、労働、環境及び腐敗防止に関する普遍的原則を進める『国連グローバル・コンパクト』に当社は2013年9月から参加しています。社内・外における積極的なCSR活動の取り組みを通じて、グローバル企業として責任ある経営を推進し、持続可能な社会づくりに貢献してまいります。

2014年9月18日

代表取締役社長

金井 政明

\* 活動目標・内容内の()内の数字は、弊社ウェブサイト環境・社会への取り組み(<http://ryohin-keikaku.jp/csr/list.html>)で紹介している番号に準拠しています。

### 人権分野に関する活動報告

本年度の活動目標・内容	結果・評価	来年度の活動目標
チャイルド・ケモ・ハウス(59) 「チャイルド・ケモ・ハウス」とは、小児がん治療中の子どもたちとその家族のQOL(Quality Of Life-生活の質)に配慮した日本初の小児がん専門の治療施設です。患児と家族の目線で考えた「お家のような治療環境」に共感し、無印良品では安心安全で気持ち良く過ごしていただけるようにベッド・テーブル・イス・ソファなどの家具やファブリックを中心に日用品をコーディネートしています。入居者が変わっても、くらしの背景として飽きのこない治療環境に協力しています。 チャイルド・ケモ・ハウス: <a href="http://www.kemohouse.jp/">http://www.kemohouse.jp/</a>	2013年9月より、施設の家具(ベッド、ソファ、テーブル、チェアなど)、家電(冷蔵庫、洗濯機、電子レンジなど)を中心とした生活雑貨用品の協力を実施しました。	施設の家具、家電のコーディネートは完了し、今後は、それらの日用品が、施設でどのように使用されているかをヒアリング、観察し、商品の改良や、新商品の開発につなげていく予定です。

<p>Cafe&amp;Meal MUJIで寄付金付きメニューの提供(78)</p> <p>世界の食料問題の解決に取り組む、日本発の特定非営利活動法人TABLE FOR TWO Internationalの「TABLE FOR TWO プログラム」を、国内のCafe&amp;Meal MUJIなど全店のメニューの一部に導入し、寄付金付きヘルシーメニューのご提供しています。TABLE FOR TWO プログラムとは、私たちが社員食堂や店舗などで、TFT対象となるカロリーを抑えたヘルシーメニューを購入すると、代金に含まれる20円が寄付金となります。TABLE FOR TWO プログラムに参加いただく方は対象となるヘルシーな食事を摂ることで健康管理につながり、一方ではこの20円という金額は学校給食1食分と同等の価値があり、この寄付によってアフリカの子供たちに温かい給食が届けられるという双方にメリットのある取り組みです。TABLE FOR TWO の取り組みについて：  <a href="http://www.muji.net/cafemeal/news/news/021217.html">http://www.muji.net/cafemeal/news/news/021217.html</a></p>	<p>世界の食料問題の解決に取り組む、日本発の特定非営利活動法人TABLE FOR TWO Internationalの「TABLE FOR TWO プログラム」を、国内のCafe&amp;Meal MUJIなど全店のメニューの一部に導入しました。2013年9月から2014年2月までで21,672食、2014年3月から8月までで約10,600食分(見込み)を寄付しました。</p>	<p>引き続き活動を実施します</p>
---	---	---------------------

#### 労働に関する活動報告

本年度の活動目標・内容	結果・評価	来年度の活動目標
<p>フェアトレード(68)</p> <p>フェアトレード・ラベル商品の推進をしています。途上国の農園労働者たちを支援するために始められた公正取引であるフェアトレードを国際的に推進しているフェアトレード・ラベル商品の考えに賛同し、積極的に商品化を行っています。現在、無印良品ではレギュラーコーヒーと紅茶ティーバック、Flower MUJIではバラ、Café MUJI、Meal MUJI、Café&amp;Meal MUJIではコーヒーを展開しています。</p>	<p>紅茶、コーヒーの他、製菓材料でフェアトレード認証のクーベルチュールチョコレートを使用した「自分でつくるガトーショコラ」を発売した。Café&amp;Meal MUJIではコーヒーを販売、またFTチョコレートを使ったガトーショコラの販売も開始しました。</p>	<p>無印良品では、フェアトレードラベルだけにこだわらず、開発途上国の原料や製品を継続的に購入し、生活改善と自立を目指す取組みは強化、今後は産地と顔が見える関係を築いていく方針です。</p>
<p>キルギス、ケニア、カンボジア地域での商品開発プロジェクト(77)</p> <p>独立行政法人国際協力機構(Japan International Cooperation Agency、以下 JICA)が発展途上国で支援している一村一品運動に賛同し、JICAとの共同企画商品を展開しています。キルギスのフェルトを使った商品、ケニアのソープストーンを使った商品というように、地域の特産物を活かした住民による地域活性化を目指した取り組みです。</p>	<p>これまで当該商品は「クリスマス・シーズン」に販売することを見込んでいたが、13年度からは「年間定番として販売できる企画」にレベルアップさせるため、商品デザインの変更に取り組んでいます。14年9月までに、キルギス向けに約5万ドルの発注が完了しており、今後14年度末(15年2月)までにさらにキルギス3.2万ドル、ケニア1.3万ドルの商品発注を計画しています。</p>	<p>引き続き活動を実施します</p>

<p>障がい者雇用(84)</p> <p>障がい者雇用の推進に努め、2010年10月、社団法人東京都雇用開発協会から、障がい者雇用促進優良企業として表彰を受けました。</p>	<p>2009年からスタートしたハートフルプロジェクトは販売部と連動して店舗数および障がい者数の拡大を継続し、都市圏だけでなく全国での雇用が進んだ。2009年1.44%の雇用率は、2014年には3.7%となり、190名の障がいの方が目標をもって勤務している。こうした継続的な取り組みに関し、機構から理事長努力賞受賞、厚労省の研究会等の委員に参集、また医療・教育の現場からも事例紹介の依頼を受けました。</p>	<p>2014年度4%、2015年度5%の目標を達成すべく全社で取り組みます。また各個人の能力を発揮できる職場づくりに今後も全社で取り組む体制を確立していきます。</p>
---	--	---

## 環境に関する活動報告

本年度の活動目標・内容	結果・評価	来年度の活動目標
<p>デザインによる問題解決 (1)</p> <p>サイズやモジュールを統一することで、生活や目的の変化に対応し、商品の長期使用を可能にしています。消耗部分が取り替えられ、商品を永く使い続けられます。</p>	<p>衣服・雑貨では納品形態のアソート箱サイズ統一による物流効率アップによる環境負荷軽減。生活雑貨はモジュール化されたスチールユニットシェルフのオプションバリエーションを追加、用途の幅を拡大します。</p>	<p>引き続き活動を実施します</p>
<p>素材、工程の点検(2)</p> <p>再生素材、捨てられるもの、残反・残糸など、資源をムダにしない素材を採用しています。</p>	<p>衣服・雑貨では、2013年11月「まんまの色」アルパカの原毛色のみ商品発売。2014年4月大型店企画残反生地を利用したシャツをカスタマイズするポケット発売しました。2014年4月～8月 FOUNDMUJI「直線裁ちの服」布を無駄にしないという考え方でデザインした衣服発売。裁断の際あまった布を付属ストールとしてセットして販売しました。生活雑貨は落ち綿ふきんに加え落ち綿座ふとん、スリッパを展開、オーク材節有りテーブルはリアルファニチャーで出た端材を活用し作成しました。食品は今期も引き続き素材の切れ端を使った商品、無選別の素材を使った菓子を販売継続します。</p>	<p>引き続き活動を実施します</p>
<p>包装の簡略化(3)</p> <p>できるだけ包装をしない販売を目指します。包装が必要な場合も最小限の包装となる努力をします。</p>	<p>衣服・雑貨では納品形態の個包装廃止による環境負荷軽減(2014SS～本格稼働)をめざしています。生活雑貨はカトラリーの梱包材を身蓋から蓋付きに変更、省資材化と生産効率を図る。食品は包装が簡略化されているレトルト食品の売り上げが大幅伸長しました。</p> <p>飲料では「好みの濃さで飲むシリーズ」として、他社でよく使われる個包装にはせず、販売継続しています。</p>	<p>引き続き活動を実施します</p>

<p><b>繊維製品のリサイクル(5)</b> 2010年からスタートしたFUKU-FUKUプロジェクトは、繊維製品をバイオエタノールとして再生する新しい技術を中心に、衣料品の100%リサイクルをめざし発足した企業連携のプロジェクトです。</p>	<p>2013年9月から2014年9月の期間において、繊維製品のリサイクル活動「FUKU-FUKU」プロジェクトを5回開催しました。</p>	<p>引き続き活動を実施します</p>
<p><b>プラスチック製品のリサイクル(6)</b> 無印良品は、環境省が実施するプラスチック製品の店頭回収による・リサイクルの実証事業「PLA-PLUS(プラプラ)プロジェクト」にスタート当初より参加しています。</p>	<p>第3回目の「PLA-PLUSプロジェクト」が、新たに家電量販店店頭など46社の協力のもと回収エリアを拡大して、実証事業が行われました。当社では2014年2月1日から3月15日の期間で参加し、7店舗でじっししました。尚、今回の店頭回収では無印良品のポリプロピレン製品とアクリル製品を回収の対象として実施しています。</p>	<p>次回の予定は未定ですが、環境省が実施すれば参加する予定です。</p>

#### 腐敗防止に関する活動報告

本年度の活動目標・内容	結果・評価	来年度の活動目標
<p><b>お取引先様とのコミュニケーション(62)</b> 製造委託取引先様には、良品計画の企業行動を理解し、継続して実践していただくために、「良品計画の環境・労働・安全マネジメント」を製造委託契約書に包含しています。実施の確認は、全社に対して毎年1回、アンケート形式で行い、結果は同じく全社が集まる「取引先集会」の場で報告し、実態の共有をしています。</p>	<p>全社に対して、毎年1回、アンケート形式、今年は2013年11月25日～12月13日を調査期間として実施。「お取引先アンケート」は221社(237名)に回答いただきました。 「行動規範アンケート」は210社が回答し、いずれも回答率100%となりました。2014年3月の取引先集会にて結果をフィードバックして情報、認識を共有しています。</p>	<p>引き続き活動を実施します</p>

#### その他の活動報告

- ・社外清掃:2008年2月より、本社社員の有志による本社ビル周辺の清掃を月に1度実施しています
- ・キッズサマーキャンプでの社員ボランティア:毎年、無印良品津南キャンプ場で開催している「キッズサマーキャンプ」に本社社員がボランティアとして参加し、子どもたちの食事の準備などをお手伝いしています。

<p>このCommunication on Progress の報告内容をどのようにステークホルダーに伝えますか。 グローバル・コンパクトのウェブサイトに掲載する。</p>
--

以上